

文教いしかわ

石川県文教会館

No.90



— 特集 —

- 1 頁：能登半島地震後の公立学校への学習支援
- 2・3頁：特集 これからの学校教育の方向性
- 4・5頁：インタビュー「人」

教育次長兼学校指導課長 北島 公之氏
ガラス作家 佐藤 静恵氏

能登半島地震後の公立学校への学習支援

教育次長兼学校指導課長 北島 公之



登高校の生徒寮で大規模な敷地崩落、金沢北陵高校で法面崩落等、敷地・施設の面で甚大な被害が生じました。

1 はじめに

今般の地震により、奥能登地域を中心に県内公立学校の8割を超える292校で被害が発生しました。例えば、県立高校では飯田高校で地盤沈下、輪島高校で校舎の継ぎ目破損、穴水高校で通学路崩落、能



穴水高校（通学路崩落）

2 主な対応事例

県教委では、被災直後から児童生徒の学びの継続に向け、様々な支援を行ってきました。ここでは、特に、県教育委員会学校指導課が関わった支援の一部を紹介します。

(1) 中学生の集団的避難

1月中旬から3月中旬まで、輪島市の中学生258名を白山青年の家と白山ろく少年自然の家で、また、珠洲市、能登町の中学生142名を医王山スポーツセンターで受け入れました。避難した中学生は親元を離れ、当初は不安な気持ちを抱いていましたが、施設の方々や当該中学校の先生方のご支援により、落ち着いた生活環境で勉学に励むことができました。

(2) 高校生の避難所及び学習場所開設

1月15日から、緊急避難を要する能登6市町在住の高校3年生(約50名)を対象に、金沢市内のホテルのご支援のもと、宿泊場所や学習場所を提供しました。また、奥能登から避難している高校1、2年生(約60名)には、金沢大学のご協力のもと、県文教会館で対面授業等が行える学習場所を提供しました。なお、現在でも金沢近辺に避難している高校生がいることから、内灘高校や、避難先近隣の高校で、在籍校のオンライン授業などを受けられる環境を整備し、学習環境を確保しています。

(3) 高校入試の新たな受検会場開設

奥能登から避難している受検生を対象に、入試合場として、県教員総合研修センター会場を新設し、臨時バス

を運行させることで、会場移動にかかる負担を軽減しました。

(4) 奥能登小中学生に向けた学習支援

始業が遅れた奥能登の小中学生を対象に、学校以外の場所でも学習を進められるよう、3学期の学習内容に関連する参考動画や確認問題を県教委で作成し、HPに掲載しました。

また、学びを円滑に再開させるため、民間業者と連携し、支援を要する学校と支援を提供できる企業やNPO法人等をつなぐ「学びの支援ポータルサイト」を1月31日に開設しました。そこでは、学習で必要となる、内履き、ヘルメット、制服・体操服、文房具、ランドセル等の支援物資を取り扱いました。

(5) 被災した児童生徒・保護者へのケア

被災により精神的なショックを負った児童生徒の気持ちを回復させる心のケアや進路学習相談のため、児童生徒及び保護者を対象に、電話相談窓口を1月15日に開設したほか、七尾市以北の学校を対象にスクールカウンセラーを追加派遣しました。

今年度は、奥能登配置のスクールカウンセラーを、前年度より約2倍の20名に増員し、また、避難先から近隣学校に通学している児童生徒に対しても、オンラインでの教育相談や、教員による直接面談など、子どもの実情に応じたきめ細かな相談・支援に取り組んでいます。

3 当面の課題と今後の展望

被災した学校は、現在、従来の教育活動に戻りつつありますが、その一方で、様々な課題もあります。例えば、学校施設の防災機能の見直しや、学びの機会を維持し続けること、地域貢献を進んで行う子どもたちの心を醸成すること等が挙げられます。

そのためにも、学校施設の復旧を早期に進め、避難所としての機能を兼ね備えた施設の機能向上を図ること、そして、今般の地震を契機に、地域の自然や歴史、文化や産業を学びつつ、国内外の児童生徒との交流や課題解決型の探究学習を進めて行きたいと考えています。

県教委としては、能登の復興を担う若者が少しでも増えるよう、各学校や市町教育委員会と連携しながら、「創造的復興」を合い言葉に、児童生徒の学習環境の確保・改善に向けて、様々な取り組みを着実に進めてまいります。

はじめに

本県における学校教育の方向性として、ここでは、学力向上、生徒指導、特別支援の3つの観点から、学校の現状や課題解決に向けての主な取組を紹介いたします。

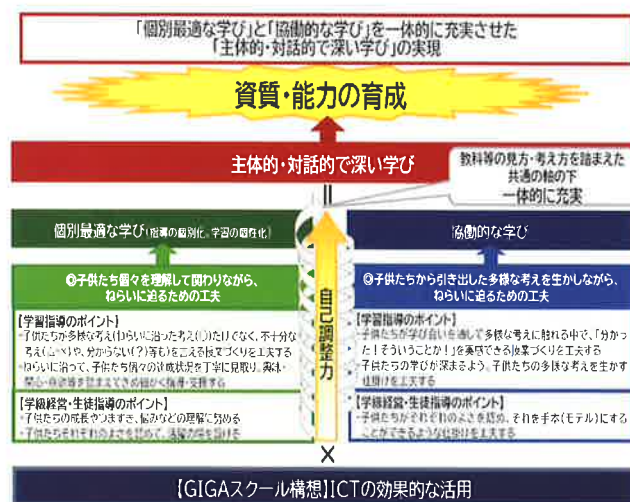
1 学力向上

(1) 国の動き

国は、「2020年代を通じて実現を目指す学校教育」として「令和の日本型学校教育」を示し、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を求めています。

(2) 小中学校における取組

国の方向性を踏まえ、本県では、令和5年度より、「『主体的・対話的で深い学び』の実現」を、本県の学力向上の重点（下図）として取り組んでいます。



例えば、授業の中で、不十分な考えや分からないという意見でも、子供たちが隠すことなく安心して言える環境づくりを「個別最適な学び」のポイントとし、一方、多様な考えを生かしながら、子供たちが説明し合い、質問し合うという学び合いを通じて、「分かった！そういうことか！」と、クラスやグループを通して学習のねらいに迫ることを「協働的な学び」のポイントとしています。

こうした2つの学びを一体的に充実させる上で、有効なツールとなるのがICT機器です。令和2

年度末に生徒用端末が整備されてから、各校で効果的な活用法を模索し、その成果を授業の中で生かしています。

(3) 高等学校における取組

「令和の日本型学校教育」では、新時代に対応した高等学校教育として、STEAM教育（Science, Technology, Engineering, Liberal Arts, Mathematics）等で見られる教科横断的な学習の推進が掲げられました。

そこで、本県でも、各校既存の探究活動を深化させるため、令和5年度より県内大学や企業と連携して「STEAM教育推進チーム」を設け、本県におけるSTEAM教育の理念や指導法を確立することとしました。

例えば、昨年度のモデル校である金沢二水高校では「自然災害」を共通テーマに、各教科横断型学習スタイルを模索し、他教科とのコラボ授業や、複数教科で学習を引き継ぐリレー授業などを行いました。

今年度は、大聖寺高校と羽咋高校の2校をモデル校に追加し、近隣の大学や地元企業と連携することで、探究活動の高度化を一層図っていく予定です。

また、令和4年度から能登地区の高校を対象に「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」を実施しています。奥能登に拠点をおく上場企業と連携し、地域課題を解決するビジネスプランを企画・提案することで、生徒の、チャレンジ精神や探究心、情報収集力、実行力等の資質、能力を育成しています。



2 生徒指導（いじめ・不登校対応）

いじめについては、日頃から児童生徒を丁寧に観察するとともに、その状況を教職員間で情報共有し、解消に向けて組織的に対応することが重要です。

本県では、いじめ問題の学識経験者等を「いじめ対応アドバイザー」として委嘱・派遣することにより、未然防止と早期発見を図ることで、風通しのよい学校づくりを目指しています。

また、いじめ問題に悩む児童生徒やその保護者が、いつでも専門相談員に相談できるよう、夜間・休日を含む24時間体制の「子供SOS相談テレホン」を設置し、日々、丁寧に相談に応じています。

不登校については、家庭との連携はもとより、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家とも連携しながら、一人一人の実情に応じたきめ細かな相談・支援に取り組んでいます。

また、学校には行けるが教室には入れない児童生徒に対しては、教室への復帰に向け、生活リズムを見直す場として、多くの学校では、校内に別室を確保し、別室登校する児童生徒に丁寧な指導を行っています。

県教委としても、令和5年度から県独自に、別室登校の多い学校に対して、経験豊富な再任用教諭を専任教員として配置しています。



加えて、保護者同士が日頃の悩みや不安を話し合うことで、保護者の心理的負担の緩和を図ることを目的とした「学校に行けない子どもについて考える保護者の会」を令和3年度から開催しており、専門家の助言のもと、必要に応じて、様々な相談窓口を保護者に情報提供し、関係機関に繋いでいます。

3 特別支援教育（合理的配慮）

障害者差別解消法では、障害のある人に「合理的配慮」を提供すること等を通じて、「共生社会」の実現を目指しています。

学校における「合理的配慮」とは、障害のある子どもが、他の子どもと平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するため、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、各学校には、本人保護者の意向に対し、合意形成に向けた対話を通して必要な支援を提供すること、また、組織的に対応する体制を整備することが求められます。

具体的には、問題用紙の拡大や、口述筆記（他の人の話す内容を筆記）、読み上げ（問題文を読み上げ）、漢字のルビ振り、別室での対応、教室内の騒音軽減（机・椅子の脚にテニスボール取付）等を行っています。



そうした提供内容は、個々の障害や教育的ニーズ等に応じて、各学校の校内委員会で決定されません。

なお、合理的配慮の提供や、個別の教育支援計画、指導計画については、特別支援教育コーディネーターや特別支援学校教員等の専門家の助言のもと、立案・実施しています。

4 まとめ

今回、ここで取り上げた内容は、現在の学校で進めているトピックの一部です。学校現場は「生もの」であり、絶えず発生する教育課題に対し、スピーディーに対応しなくてはなりません。県教委としても、課題の分析と解決に向けた方策について様々な検討を重ね、本県の子供たちが生き生きとした学校生活を送ることができるようしっかりと施策を進めてまいります。



ガラス作家 佐藤 静恵氏



埼玉県生まれ。多摩美術大学工芸学科ガラス専攻を卒業後、中学校の美術教諭として勤務、その後筑波大学大学院に進学しオーストラリアに1年間留学。滞在中、日本と欧米におけるガラス造形の違いに興味を持ち、修了研究を行う。金沢卯辰山工芸工房で独自の表現方法に研鑽を積み、現在はガラス作家としての制作活動を行うとともに、金沢星稜大学で教員志望の学生に対し造形教育の指導にあっている。また4月には東京藝術大学大学院へ進学し、博士号の取得を目指す。

(受賞) 第8回現代ガラス展in山陽小野田 大賞<2020> 富山ガラス大賞展2021 銀賞<2021>
(作品収蔵) メトロポリタン美術館、NY所蔵(作品「Interface vol.11」)

インタビューー 石川県文教会館 館長 橋本 祐之

館長：本日は、ガラス作家、教員、学生と多岐にわたって活動され、さらに当館の「文教国際理解講座」を受講いただいている佐藤静恵先生にインタビューさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

佐藤：よろしくお願いいたします。

～文教国際理解講座(CLC)との出会い～

館長：当館の文教国際理解講座を受講していただき、ありがとうございます。まず、受講しようと思われたきっかけとございますか、目的を教えてください。

佐藤：オーストラリアに留学をしていたので、英語を少し話せます。自分のやっている事や作品について英語で説明する機会がたくさんあり、使っていないとすぐ忘れてしまうので、週1回の講座を通して英語力の維持もしくは向上を目指して受講を決めました。

館長：どれくらいの期間、受講されていますか？

佐藤：私が金沢に来たのが2019年ですから、2020年から始めたと思います。今年で5年目になります。

館長：文教国際理解講座の魅力は、何ですか？

佐藤：ジョフリー先生の授業の上手さです。英語の教え方が上手いのはもちろんですが、毎回の講座のトピックはタイムリーな話題を取り上げ、新しい興味・関心ごとを探求されて、すぐに受講生に伝えることができる高いポテンシャルをお持ちの方です。幅広い年齢層のレベルに応じた学びを提供できるのは、教育者として素晴らしいと常々思っています。

～留学を通して学んだこと～

館長：大学卒業後、東京都の中学校で美術教員として働いていらっしゃったのに、その職をやめて留学されたのはなぜですか？

佐藤：在職中から、留学したいと思っていました。目的は知見を広め、海外での作品発表の機会を持ちたかったからです。留学制度についていろいろ調べた上で、筑波大学大学院に進学し、交換留学制度を利用して、オーストラリアに1年間留学しました。

館長：実際、オーストラリアに行かれてどうでしたか？

佐藤：ベビーシッターのアルバイトをしながら、シドニーカレッジオブアートで制作をして週1回ぐらい、スーパーバイザーの先生に自分の勉強の進捗具合を説

明し、ディスカッションをしていました。

また、留学中に2つのガラスコンペに出品し、入選者作品展で作品を発表することができました。



館長：留学の目的を実現できたのですね。留学をしてどのような日本との違いを感じましたか？

佐藤：日本のすばらしさをあらためて感じました。人が優しい、ご飯がおいしい、安全が保障されているなど、日本人として生まれてきてよかったと思いました。

～なぜ、ガラスなのか～

館長：佐藤先生がガラスを素材とした作品を作るようになったきっかけを教えてください。

佐藤：芸術方面に進むきっかけは、小さい頃から絵を描くのが好きで、そこから始まっています。特にガラスをやろうと思ったのは、進学した多摩美術大学に「金属・陶芸・ガラス」の3コースがあり、その中でガラスが一番キラキラしていて綺麗だなという軽い気持ちからでした。けれど、入学したらイメージとは全く異なっていました。ガラスを使った制作は、力仕事、汚れ仕事、怪我が絶えません。ガラスという素材は綺麗だけれど、それを作っている人は大変で、想像とは全く違うマニアックな世界だなと感じました。

館長：その後、ガラスの専門性を高めていこうと思ったのはなぜですか？

佐藤：筑波大学大学院時代に、指導教官の先生が「工芸のあり方」や「素材造形との向かい方」を教えてください



さった時に、その先生から「あなたのやろうとしている事はプラスチックや樹脂でもできる。あなたがガラスを使う意味って何？」と投げかけられて、手が止まってしまいました。自分がガラスを使ってモノを作る意味、素材選択の責任みたいなものと向き合った時

に、今まで培ってきたガラスの技術、知識をゼロにして、自分が初めてガラスに触ったらどんなことをやるだろうと考えてみました。まず粉にし、糊と水を混ぜて絵を描くだろうなど。そこから、絞り出しでメッシュのガラスを描くようになりました。

～「金沢卯辰山工芸工房」での武者修行～

館長：大学院卒業後、いよいよ金沢との出会いですが、ガラス工芸を学ぶ場として、「金沢卯辰山工芸工房」を選ばれた理由は何ですか？

佐藤：今まで勉強や留学をしてインプットばかりしてきた、アウトプットが全然できていないなと感じていました。こんなに一生懸命勉強したのに、自分が何ひとつとして結果を残せていないので、この先ちゃんと作家として作品を世に出していけるように、一念発起して武者修行を試してみるのもいいのではないかなと思ったのです。そこで、ガラス工芸に限らず、工芸の作り手をめざす人にとって有名な「金沢卯辰山工芸工房」の選考試験を受けました。応募資格に年齢条件があって、私はギリギリの年齢でした。

館長：2019年ですね。選考試験に合格し、「金沢卯辰山工芸工房」に入られてどうでしたか？

佐藤：制作に集中できるととてもいい環境でした。けれど、毎日作品と向き合う中でうんざりすることもありました。週1回のお休みの日にも仕事をしていたので、ずっと何かに追われている日々でした。自分が好きでその環境に身をおいてはいるのですが、辛いこともありましたね。

館長：まさに、武者修行の3年間だったのですね。

佐藤：おかげさまで、そこで作った作品が後々賞を取ったり、美術館に收藏されたりして、結果を残すことができたので、今振り返れば恵まれた環境だったと思います。

館長：作家の方々は個性が強い方もいらっしゃると思うのですが、その中で自分の特色をどのようにして出されていたのですか？

佐藤：卯辰山の工房に入る時点でほとんどの作家は、自分の方向性を固めてきています。それをひたすら反復というか、実践してブラッシュアップしていきます。我が強い作家同士が、ほぼ毎日同じ場所で一緒に過ごしていますので、お互い相いれない時もありました。当時はそれがストレスでしたが、今思えば大切な時間でした。競合相手がいないと切磋琢磨できないし、自分の中の表現をよりよくしていくためのきっかけにもつながらないし、そのようなスパイスは必要だなと思います。

館長：佐藤先生の作品は、ガラスだけどガラスに見えないような、そして哲学的で独特な作品ですね。

佐藤：ありがとうございます。他の工芸作家さんも同じように素材に向き合って作られていると思います。特に金沢は工芸の街なので、そのような工芸作家さん

を応援してくれる土地柄で同志がたくさんいて嬉しいです。

～再び教育の場へ～

館長：再び教育の場に戻り、今日のように感じていますか？

佐藤：ご縁があり、現在金沢星稜大学で小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を目指す学生に造形教育に関する授業を行っています。自分が学生の時とは異なるところも多く、ジェネレーションギャップを感じますが、毎日新しい発見がありますね。



館長：学生にはどのような想いで授業をされていますか？

佐藤：私の専門性に触れてもらうことで、人としての幅という引き出しを増やしてほしいという想いで授業を行っています。広い視野を持った世界に羽ばたくような学生が出てきてほしいなと思っています。

～今後の夢～

館長：今後の夢・目標についてお聞かせください。

佐藤：材料が手に入らない、経済的な困窮などから、今まで作ってきた作品が作れなくなり、作家活動を諦める人が増えています。そうした中、今自分が研究職として身を置いている環境で何ができるかを考えた時に社会情勢の変化に対応したモノづくりの在り方やモノづくりを継続していく一つのヒントを提示することができるのではないかと考えています。まずは、来年9月に金沢市内で開催予定の個展に向け新作に取り組むとともに、素材実験や制作方法について研究論文をまとめたいと思っています。

館長：今年度から東京藝術大学大学院美術研究科（工芸科博士後期課程）へ入学されましたが、どのような研究をされるのですか？

佐藤：修士研究で取り組んでいた「ガラス造形を通じた日本の工芸概念と西洋美術との比較研究」を継続して行っていきたいと考えています。素材調査や関係者へのインタビューでチェコや北欧にも行ってみたいですね。



◆第37回いしかわ県民陶芸展 アマチュア作品大募集!!

★作品募集★

- 作品規定 ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内
- 受付日時 令和7年1月11日（土） 10:00～15:00
 受付場所 石川県文教会館 4階和室
 出品料 一般：2,000円、青少年（大学生以下）：無料



第36回大賞
伊吹 珊瑚 「Furry」

★表彰式★

- 日時 令和7年1月19日（日）4階大会議室 10:00～
 （賞状授与、審査員による講評・作品解説）
- 賞状授与 いしかわ県民陶芸大賞、石川県教育委員会賞、文教会館理事長賞、奨励賞
 審査員 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋長左衛門
 （五十音順・敬称略）

★作品展示★

- 展示期間 令和7年1月19日（日）～26日（日）
 9:00～16:30（最終日は15:00まで）
 展示会場 石川県文教会館 4階和室（※入場無料）



第36回 入賞作



応募要項・応募票は、石川県文教会館にあります。また、当館のホームページからもダウンロードできます。
<http://www.bunkyo.or.jp/>（石川県文教会館）

令和6年度 文教国際理解講座のご案内

～ネイティブスピーカーによる異文化理解講座です～

講座名	内容	曜日	講座時間
英米文化 初級	挨拶程度の会話をしよう （英検3級程度）	木	午前 午後
英米文化 準中級	英語で簡単な会話ができるように （英検準2級程度）	水 木	午前・午後 午前
英米文化 中級	英語で日常の会話ができるように （英検2級程度）	火 木	午前 午後
英米文化 上級	日本語同様に会話ができるように （英検準1級程度）	火	午後



★講座時間（100分）
 午前）10:00～11:40
 午後）18:30～20:10

※応募期間が過ぎても定員に空きがある場合は、途中入会できます！
 受講料は、入会後の回数分となります

実施期間：令和6年5月～
 令和7年2月
 対象：学生から一般まで
 定員：1講座20名程度
 受講料：36,000円（年35回）
 （教材は実費負担）



文教国際理解講座 検索

令和6年度 文教アートウェイブ

～演劇・演奏会・リサイタル等に
ご利用ください～



文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年も感動のひとつときをお届けします。

《今年度の公演(予定)》

★公演の日程等が変更になる場合があります。

金沢高等学校吹奏楽部 定期演奏会 ◆入場無料	令和6年6月16日(日) 13:30～(開場13:00)
金沢市立大徳中学校吹奏楽部第11回定期演奏会 ◆入場無料	令和6年9月7日(土) 13:30～(開場13:00)
金沢桜丘高等学校吹奏学部クリスマスコンサート2024 ◆入場無料	令和6年12月15日(日) 17:30～(開場17:00)



令和7年度の文教アートウェイブ公演募集!!

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費を無料でホールをお使いいただけます。(照明設備費・舞台技術費等有料)

実施時期：令和7年度中で、原則として9月から12月を除きます。

*但し、9月から12月であっても、実施予定日の6か月前までにホールの予約が入っていない場合は申し込みをすることができます。

申込期間：令和6年5月1日(水)～令和7年3月31日(月)

申込方法：事前に当館にお問い合わせの上「文教アートウェイブ申込書」に必要事項を記入し、文教会館事業課までFAXまたは郵送してください。申込書の書式はホームページからダウンロードできます。

※詳しくは文教会館HPで確認いただくか、お電話でお問い合わせください。TEL(076-262-7311)

令和6年度 教育資料収集整理事業

当財団では、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。教育文献や教具等、収集点数は5万9千点を数えます。これらの教育資料は当館の資料展示室や教具室で閲覧することができます。(要予約)蔵書リストは、当館ホームページよりダウンロードできます。



教育資料収集整理事業 「教育資料ロビー展」のご案内

1Fロビーにて開催中

「特色ある学校の活動」として、県内にある学校の取り組みの様子を順次展示・紹介しています。現在どの学校が展示されているかはホームページでご確認ください。You Tubeでの発信も行っていますので、是非ご覧ください!!

教育資料ロビー展 検索



大聖寺実業高校



七尾特別支援学校(輪島分校)



金沢桜丘高校

文教会館の施設ご利用について ~教育文化の発信に 研修・会議・交流の場にも~

少人数の打ち合わせから研修・講演会まで様々な用途やご利用人数に合わせた会議室をご用意しています。
また、和室、茶室、応接室などもどなたでもご利用いただけます。
お気軽にお問い合わせ下さい。



- ◎備品の貸出有ります
 - ・プロジェクター、スクリーン（有料）
 - ・演台、マイク、パネル（無料）
 - ・Wi-Fi（無料：一部非対応の会議室あり）も設置
 - ・その他、備品等についてはお問合せください

- ◎ピアノは、
 - ・ヤマハ・スタインウェイをご用意しております（有料）



喫茶コーナー「エース」よりお知らせ

~会議の合間にちょっとコーヒーズレイク~

会議室をご利用の際は、飲み物を**5杯以上**のご注文で、**1杯200円（税込）**で提供させていただきます。
ぜひご利用ください。



MENU

トースト	240円	コーヒー	310円
カレー	420円	(ホット・アイス)	
ピラフ	390円	紅茶 (ホット)	310円
カレーうどん	390円	オレンジジュース	260円
パスタ	390円	ケーキ	440円
		(※価格はすべて税込です)	

MENU

- ◎ビーフカレーセット 680円
- ◎ピラフセット 650円
- ◎パスタセット 650円

※セットは、食後の飲み物（コーヒー・紅茶）が付きます

ビーフカレーセット



都心の教育文化のオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

